

元日野サンプラザの有効活用に関する提言

平成28年6月14日

元日野サンプラザ有効活用検討委員会

元日野サンプラザの有効活用に関する提言

本検討委員会は、日野町の商業集積地であり、交通の要所でもある国道181号線沿いの一等地に立地する「元日野サンプラザ」について、町の地方創生戦略の柱として、地域経済の活性化や賑わいづくりに資する拠点施設として有効活用するため、昨年11月からその有効活用のあり方について協議を重ねてきたところであり、各委員、住民からの意見募集で多くの意見、様々な活用策が出され、また異論もありました。これらを委員会として集約し、このたび、日野町への提言というかたちで意見を取りまとめました。

人口減少が進む中、この提言を踏まえた「元日野サンプラザ」の有効活用の取組がスピード感を持って推進され、日野町が将来持続していくために「地方創生の切り札」となることを願っています。

記

1 有効活用の基本的な考え方

- 日野町の地方創生に資する拠点施設として、賑わいづくりや交流人口の拡大による地域経済の活性化及び雇用創出につなげるため、町外から人を呼び込むことができる仕掛けや魅力的な店舗等の誘致が不可欠である。
- 建物が約1,800㎡とかなり広いことから、施設をより有効かつ効率的に運営するため、3～4分割して複数の機能を有する複合施設として整備することが望ましい。
- 住民ニーズがある子育て支援や健康づくりに加え、アートや住民生活の利便性向上に資する機能を加えるよう配慮いただきたい。
- 大規模な地震など災害発生時に備え、一時的な避難所、ボランティアセンター、各地から送られる生活支援物資等の仕分け、保管を行う施設や備蓄倉庫としての活用についても視野に入れておくことが望ましい。
- 施設の運営については、基本的に民間の力やノウハウを活用することとし、一定の組織や団体に賃貸又は運営委託するなど、それぞれの機能に応じて最適な運営方法を検討すること。

2 具体的な活用の方策

上記1の「有効活用の基本的な考え方」をもとにした具体的な活用の方策としては、以下のような活用が考えられる。

施設全体を大きく3つのゾーンに区切って、多機能複合施設として整備する。

大規模な災害発生時には、「(3)セレモニーゾーン」をはじめ施設全体の空きスペースを一時的な避難所や生活支援物資の保管所等として活用する。

(1) 賑わい・交流ゾーン

年間20万人を超える観光客が訪れる金持神社の集客力を活かすため、これまで観光客から要望が多かった宝くじの販売を行う。金持神社のレプリカ設置や門前横丁のような内装を施して、神社ゆかりの縁起物の製作体験や販売を行うとともに、町外から集客が期待できる店舗を誘致し、賑わいを創出する。

道の駅的な機能として、休憩コーナーや公衆トイレを設置し、観光情報や移住定住など

町の各種施策を情報提供するとともに、農産物など町の特産品販売や日野高校のショップの臨時的な開設を検討する。

子育て支援の一環として、保育所及びおひさま広場の休業時や買物の前後に、親子連れで気軽に訪れ、室内で幼児を安心して遊ばせる遊具コーナーを設置する。

超高齢化社会において大きな課題となっている住民の健康づくりの拠点として、特に中高年齢層でニーズの高いトレーニングルームを設置して健康教室を開設する。

① 宝くじ売場、縁起物の製作体験・販売コーナー

- ・年間20万人超が訪れる金持神社から人の流れをつくる宝くじ売場、神社レプリカ
- ・木工、革、和紙、染織などの作家を全国から複数募集するなどにより、観光客が縁起物の製作体験や買物ができるコーナー

② 商業店舗・休憩コーナー

- ・パン屋、スイーツ店、カフェなど町外から来客が期待できる魅力ある店舗を公募
このほか、住民生活の利便性を高める店舗の設置も検討
- ・買い物の行き帰り、高校生の登下校時に休憩できるスペース
- ・自家用車や観光バス乗客のトイレ休憩など、一定の利用者に対応できるトイレ

③ 観光情報・日野町紹介コーナー

- ・観光情報や移住定住をはじめとする町の各種施策を情報提供

④ 特産品展示・販売コーナー

- ・米、原木椎茸、鈴原糯など町の特産品や土産品の販売
- ・日野高校魅力向上のための地域連携として日野高ショップの臨時営業

⑤ 遊具コーナー

- ・クッション素材の滑り台や積み木など、屋内で幼児が安心して遊べる遊具

⑥ トレーニングルーム

- ・スポーツクラブや日野病院と連携した健康教室を開催
- ・幅広い年齢層で利用できるトレーニング機材

(2) オフィスゾーン

移住定住を促進するため、働く場の確保、雇用創出につながるサテライトオフィス等を誘致する貸事務所スペースを整備する。その際、事業所等誘致の前提条件となるIT環境の改善を早急に進める必要がある。

○サテライトオフィス等の貸事務所

- ・IT系やデザイン系など比較的小規模なスペースで可能な事務所を複数誘致
- ・移住者をはじめ、町内で起業や新分野進出等にチャレンジできる場としても活用

(3) セレモニーゾーン

町内になく、近年、町民の求める声が高まっている小規模な葬祭や法事ができる葬祭施設を設置する。賑わい・交流ゾーンなど他機能ゾーンとの併設による影響を最小化するため、他の機能と完全分離する壁を設置するとともに、建物全体の後方部に配置するなどの対応が必要である。

○セレモニーコーナー(葬祭施設)

- ・数名程度の家族葬から一定規模の利用も可能な専用の葬祭施設
- ・町の中心地で交通の便が良く、屋内で雨など天候も気にせず、椅子に座って快適に参列できる環境を整備

3 提言に至る経緯及びその他の主な議論

(1) 経緯

- ・平成27年11月に元日野サンプラザ有効活用検討委員会を立ち上げ、平成27年12月には住民からの意見募集を行い、平成28年6月まで計5回の委員会を開催。

(2) その他の主な議論

- 介護をはじめ福祉施設の設置を希望する意見があったが、法的手続に無理が伴う上、事業主体がないことから実施困難と判断。
- 葬祭施設については、反対との意見や集客施設との併設に不安視する意見があったが、町外への経済流出が顕著であり、高齢者等が葬儀に出席するためには町内に必要との意見が大勢を占めた。
- 葬祭施設は宗派を問わず利用できるようにすることや、複数事業者が運営にあたるようにすべきとの意見があった。
- ファミリーサポートセンターの設置を希望する意見があったが、子どもを預かる場所として、商業一等地に立地する施設に設置する必要性に乏しいと判断。
- 高度情報通信の整備を求める意見が複数あった。
- 国道から施設敷地内への進入路は、交通事故の危険性が高いので、何らかの安全確保対策を講ずべきとの意見があった。
- 駐車スペースを十分に確保・整備することや、環境に配慮したクリーンエネルギーの活用や光熱費の削減を図るため、建物の屋根部分に太陽光発電設備を整備してはどうかとの意見があった。
- 複合施設の名称については、広く公募を行ってはどうかとの意見があった。

元日野サンプラザ有効活用検討委員会委員名簿

所属・職名	氏名	備考
日野町商工会会長	中西 康夫	委員長
日野町観光協会会長	小谷 澄男	
日野町社会福祉協議会会長	山田 厚弘	
民生児童委員、D o スポーツ会長	森田 勝彦	
黒坂地区連合区会長	鳥居 良光	
子育て世代	高田 美樹	
山陰合同銀行根雨支店長	今出 正	
鳥取銀行根雨支店長	田中 敦	
鳥取県西部農業協同組合日野支所長	安達 淳子	
鳥取日野森林組合参事	小谷 順万	
鳥取県西部総合事務所日野振興センター所長	藤本 好正	
鳥取県商工労働部立地戦略課長	池田 一彦	
山陰合同銀行地域振興部副調査役	井上 光悦	アドバイザー
鳥取県商工会連合会	藤井 辰美	〃
西部商工会産業支援センター部長		